体育学における「倫理・道徳基盤」の探求――その序：生圏倫理学（Eco-Ethics）を手がかりとして

林　洋輔[1]
[1] 大阪教育大学教育学部保健体育部門
e-mail: qqfs3s79@bridge.ocn.ne.jp

【序論】

◎**研究の背景**

★日本の哲学者・美学者であった今道友信（1922-2012）を中心に提唱された「生圏倫理学（Eco-Ethics）」を手がかりとし、「人間の身体運動」を多方面から研究する体育学の「倫理・道徳基盤」を検討する方向へと議論の道筋が拓かれた。

1. 林（2020）の『体育学研究』総説論文にて明示されたように、体育学は「人間の身体運動」を研究することで「人間の幸福」に対する身体的・社会的基盤づくりを推進する学問であることが明らかにされた。他方、斯学の研究志向を支える倫理・道徳基盤の解明については今なお重要な解決課題とされる。

◎**研究の意義:**

1. 体育学は「人間の身体運動」を研究対象としつつ、（スポーツ）教育にも研究業績を蓄積しているものの、体育・スポーツ研究を支える倫理・道徳基盤についてはなお不明瞭なままである
2. Simon（2016)が明示するように、スポーツ倫理学の国際的な動向としては、スポーツ場面において問題となる諸事象の検討と分析が大勢を占めている
3. わが国の体育・スポーツ・健康の各分野に影響を与え続ける体育学の研究成果がいかなる倫理・道徳基盤を底付けとするかに関わる検討は、体育学/体育・スポーツ哲学分野に嘱望された未踏の議論地平

◎**研究の着眼:**

今道（1990）が指摘したように、生圏倫理学は現状の世界を包括的に捉える倫理の枠組みであり、実社会での実用・実効を重視する体育学を支える倫理・道徳基盤として検討の余地が見込まれる。

◎**問題の設定：**

1. 生圏倫理学の来歴と実質、課題は何か？
2. 生圏倫理学が体育学に対してどのような示唆を与えるか？
3. 生圏倫理学は今後に体育学を支えうるか？

【1. 生圏倫理学の来歴と実質、課題とは？】

わが国の哲学者・美学者である今道友信が提唱する倫理学の包括的枠組みであり、人間の行為が及ぶ限りの対象に関する倫理・道徳的責任の在り方を考究する。「徳目論の再編」を掲げるなど、その枠組みは現行の徳倫理学に親しい。最近ではMcCormick(2008)による議論など、国際的な議論も深まりを見せる。

【結論と今後の課題】

生圏倫理学は体育学が研究成果を発信する場の倫理学であるばかりでなく、「生き方としての哲学」であるストア哲学との近似も確認される。さらには「より存在の充足された人間の在り方」を求める倫理学として、「完成主義Perfectionism」の観点から体育学を支える基盤思想であり得ることが確認された。

1. 現代世界を包括的に捉える倫理・道徳の枠組みである観点において、生圏倫理学は体育学から現代社会を考察する際の基礎的視点たりうる
2. 生圏倫理学はストア哲学の枠組みに近似の構造が確認されており、身体運動する人間の「生き方」を支える議論として機能する可能性が示唆された。
3. 「存在の充足を求めて進む」との今道(1990)の記述より、「より良く在る」人間の在り方を探求する「完成主義Perfectionism」として、生圏倫理学は体育学の倫理・道徳基盤を担いうる思想である。

【2.生圏倫理学が体育学においてどう示唆を与えるか？】

「身体運動する人間」に「生き方（としての哲学）」の基盤を与える枠組みとして寄与する可能性が示唆された。

生圏倫理学はその議論区分として「行為の三段論法」ならびに「技術連関」そして「新たな徳目論の創造」など、ストア哲学に確認できる「論理学・自然学・倫理学」の枠組みを暗に踏襲しており、主体に「生き方」としての哲学を与える枠組みが示されている。

【3. 生圏倫理学は体育学を支えうるか？】

生圏倫理学は所与の自然を超えて「存在のより充足した方向」を志向する点に倫理の原点、人間性の根拠を観ており、体育学の研究する志向と近しい。「完成主義Perfectionism」として体育学を支える余地あり。

与えられた所与の環境（技術連関）を超出してより高次の存在充足へと向かうのが人間の在り方との生圏倫理学の発想は勝利、達成など「より完成された人間の在り方」を志向する体育学の研究志向と軌を一にする。生圏倫理学は「完成主義Perfectionism」の観点に基づき、体育学を支えうる倫理・道徳思想となる。

【謝辞】

本研究は令和二年度大阪教育大学「若手教員等研究助成経費（一般研究助成）」の支援を受けて行われました。記して厚く御礼申し上げます。